

イオン環境財団主催 千葉県浦安市植樹ボランティア体験レポート

近畿産業株式会社 傍島

2011年3月11日の東日本大震災で千葉県浦安市は埋め立て地を中心に液状化により甚大な被害を受けました。その際に噴出した土砂などを活用し、緑の防潮堤を作っていくとともに、暮らしにより潤いを与えてくれるよう緑化を推進していくという植林プログラムです。近畿産業株式会社から2名参加させていただきました。

2015年11月14日（土）この日は雨模様、カッパに長くつ姿で浦安の地に到着！初体験の植樹に胸をふくらませていました。まず、日本チアーズの子供たちがパネルで植林の方法を教えてください、その後各班に分かれて作業開始です。準備していただいたふわふわの土にシャベルで穴を掘り樹を植える作業はとても楽しく、同じ班の方々とお話したり、係の方に専門的なことを教わったりと有意義な時間を過ごしました。樹と樹の間に藁を敷き詰めると乾燥を防いだり、肥料になる。写真のように横方向で藁を敷くと雨が流れにくい。雨で土の跳ね返りで葉の裏の気孔がふさがれるのを防ぐなどと、一つ一つに意味があり、大変勉強になりました。予定植樹本数は7,900本。一人15本くらい植えたでしょうか。

3年計画の最終年で累計18,000本植えられたことになります。またいつの日かこの地を訪れ大きく成長している姿を見に行こうと思います。

そして私たちが植えた樹々が人々の暮らしや、未来の子供たちに幸ありますことを祈っています。



作業の後に
暖かいスープを
いただきました。
リユース食器を
使用！エコですね。